



「歓待インフラストラクチャー」研究 キックオフ・ラウンドテーブル

「歓待」空間と都市文化

～地中海から日本へ～

プログラム

14:00～14:10 趣旨説明(坂野正則)

I 鼎談(14:15～15:15)

登壇者: 樺山紘一(ヨーロッパ)
黒木英充(イスラーム)
伊藤毅(都市・建築)

II 交歓会(15:30～16:50)

登壇者・共同研究者・ゲストによる対話と交流
司会: 赤松加寿江・坂野正則
ラウンドテーブル終了後に、懇親会(会費制)

登壇者

樺山紘一

東京大学名誉教授、公益財団法人渋沢栄一記念財団理事長、
一般社団法人学士会理事長
専門は、西洋中世史、西洋文化史

黒木英充

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授、
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授(併任)
専門は、中東地域研究、東アラブ近現代史

伊藤毅

東京大学名誉教授、青山学院大学客員教授
専門は、日本建築史、都市建築史

「歓待」(ホスピタリティ)とは、「飲食や宿泊」を提供して、互酬性の中で人間関係や社会集団の安定性と持続可能性を維持するものである。そこでは、古来より、神や仏からの恩恵とそれに対する饗応という聖性を帯びた贈与関係と世俗における人間の社交術とが複雑に関連して、人間関係の基盤を構成してきた。そして、人類は、この「歓待」を支えるための空間や仕掛けを巧みに発展させた。そこには、寺社における参詣者や修道院における巡礼者の世話といった宗教的歓待から別荘(ヴィラ)や庭園の造営、饗応のための空間の設え、飲食の洗練、給仕の作法といった世俗的歓待までが含まれ、舞踏や器楽演奏といった芸能はその両者を媒介してきた。こうした多様な歓待装置が展開する核には、歓待を準備する人間や社会集団の心性・戦略・権力の表現が潜在している。われわれは、それらの総体を「歓待インフラストラクチャー」と捉え、様々な領域の知を結集して、この人間の主要な本性の構造を歴史的に捉えたいと考えている。

「歓待」の多様な性格が現れるのは、やはり多彩な人間関係が織りなす都市社会であろう。まさに、都市こそが「歓待」の様々な装置を準備する母胎であり、「歓待インフラ」から生まれたレストラン・ホテル・芸能・博覧会や見本市などが花開いたのも都市である。今回のキックオフ・ラウンドテーブルは、登壇者が専門とする地中海や日本列島の都市を対象として、個人的体験も踏まえながら、「歓待インフラ」という言葉から想起される社会や集団の特性、伝統的な慣習、都市の空間的性格などを自由に語り合っていただきたく場とした。個人の住宅から伝統的な「座敷」が消え、リモートワークによるオフィス・ビルディング使用の解体や企業文化の変容に直面する昨今、公共的・制度的なセーフティネットではなく、孤立的な個人による自助でもない、その中間領域にあって可塑性を保ちながら友情や連帯を育んできた「歓待インフラ」が含意する豊かな世界を都市社会の中で見出していきたい。

共同研究者

坂野正則

上智大学文学部教授
専門は、近世フランス社会文化史

赤松加寿江

京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授
専門は、近世イタリア都市建築史、テロワール領域史

中島智章

工学院大学建築学部教授
専門は、西洋建築史

主催

サントリー研究助成 2023 年度共同研究
「「歓待インフラストラクチャー」から読み解く
近世ヨーロッパ都市文化=空間構造の比較研究」
(研究代表者: 坂野正則)

共催

都市史学会ワーキング・グループ
「都市における文化=空間構造から捉える全体史」
(文化=空間構造論 WG)
協賛: ASUKA L'école du Vin

お問い合わせ

都市史学会「文化=空間構造論 WG」運営事務局
(東日本・上智大学坂野研究室)
sakano@sophia.ac.jp

2023年11月13日【月】 14:00～17:00 (開場 13:30)

赤坂プリンスクラシックハウス本館 2階 プリンスルーム

〒102 0094 東京都千代田区紀尾井町12 東京ガーデンテラス紀尾井町内

参加: 要申込



都市史学会
Society of Urban & Territorial History



文化 = 空間構造論 WG
WG of "culture-space" structure